
*** 春夏秋冬な僕ら ***

桃苺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

* 春夏秋冬な僕ら*

【Nコード】

N4951J

【作者名】

桃苺

【あらすじ】

いつも、『正反対』で見られていた一宮夏目と一宮真冬。
いちみやなつめ いちみやまふゆ
親友の新見秋穂と一緒にもいつも仲良く過ごしていた。
にいみあきほ

ある日、夏目達の前に謎が多い転校生がやって来た。
名前は中城春季。
なかしろはるき

ついに、4人が出会ってしまった……

純情コメディーにお笑い、ときどきシリアスな季節ストーリー、今

始
ま
っ
た
！
！

第0話 プロローグ

始まりは…生まれた時からでした……—
その時から、物語は始まっていた…。

君に出会えてよかった。

君と一緒に入れて良かった。

いろいろな気持ちが混ざってる。

たとえ、この恋が許されない恋だとしても……

最後まで一緒に居たい。

君にとって、今が最高であるように。

君にとって……僕が少しでも輝いて見えるように。

ここに誓っていたい……—

五年後、十年後、僕らはどうしているのだろう。

笑顔でこう言っていたらいいな。

『またね』

って。

第0話 プロローグ（後書き）

初めましての方々が多いでしょうか…？

桃苺です。

今回は純情ラブストーリー…というか、大半はお笑いコメディーですけど、ときどきシリアスにもなります。

こんなぐうたらな奴が書いた話ですけど、ニコニコな気持ち…？
で見てもらえたら本望です。

第1話 正反対の双子（前書き）

春夏秋冬。

それは……季節。

めぐりめぐって奇跡が生み出した『者』だ。

十人十色のこの物語に貴方はどう思いますか……？

「……せ……セーフ……」

キンコンカーンコン……

夏目が教室に着いたのは、チャイムと同時だった。

教室に入ると、夏目はまず一人の少女の席へと向かった。

「あ。来てたんだ。」

少女は黒髪のショートカットで制服も地味な色なのに着こなしている。

名前は一宮真冬^{いちみやまふゆ}。

真正正銘の夏目の双子で、柔道・合気道・少林寺拳法に剣道・空手などをたしなむ、外見からは想像できない強者だ。

「『来てたんだ。』じゃねえよ！もつとこう……——大丈夫？とか、ごめんなさい……とか言う事ねえの！？」

真冬に堂々と大声を出している夏目。

そんな風景ももう、クラスの中では一つの楽しみとなっている。

「ないね。あたしが悪かったんじゃないし、第一、心配もしていない。もうそろそろ先生が来るよ。席に戻って。夏目。」

夏目はまだ言い足りないって顔をしながらしぶしぶと自分の席に座った。

——が、真冬の斜め前の席だが。

「ったく、女のカケラもない奴だ。」

ガラツツ

ブツブツと言いながら荷物を整理している時にドアがガラツと開いた。

「ギリギリセーフです……！」

入って来たのは、ふわふわの茶髪の髪を持った女の子。
^{にいみあきほ}
新見秋穂だ。

「アウトだよ……——秋穂……」

ため息をつきながら言う真冬と文句をもごもごと言う夏目、ニコニコしながら笑っている秋穂の三人でいつも過ごしていた。

このバランスが崩れることなんてありえない。

そう思っていたこの時の僕ら。

そして――

未来の僕らはどうなっているんだろうか。

第1話 正反対の双子（後書き）

桃苺です。

読んでくださってありがとうございます。

まだ、春夏秋冬の春がそろっていませんけど……楽しく過ごす日常を描いたつもりです。

これから、どんどん関係が崩れて行きますよ……

ウフフ…

では、また次回でお会いいたしましょう。

第2話

転校生

- MAHUYU - (前書き)

春夏秋冬。

それは……季節。

めぐりめぐって奇跡が生み出した『者』だ。

十人十色のこの物語に貴方はどう思いますか……？

第2話 転校生 - MAHUYU -

キンコンカーンコーン……—

チャイムが鳴り、授業が終わったことを学校中に告げた。

礼が終わると……次々に生徒達は教室を出て行き、それぞれの部室へと向かってゆく。

あたしは……柔道部。

女子がほとんどいなくて、男女混合になっている部活だ。

ついでに、夏目は女子からのマネージャー志望が多いサッカー部で秋穂がいろいろと差し入れをしてくれる料理部。

中学生の卒業直前に各自で決めた部活だ。

あたしも荷物を整理して部室へ行こうとした時に、担任から呼ばれていた事を思い出した。

「まーふゆちゃんっ！一緒に行きお〜〜！」

あり得ないような猫声を出している秋穂に先に行っているよう言ってから職員室へと向かった。

「で、一宮^{いちみや}。頼みたい事があるんだが……—」

担任の先生は、男性教師の土屋先生^{つちや}。

自称・熱血教師と言っている教師だ。

「なんですか？先生。」

当たり前のように素っ気なく返すあたし。

こんな事で時間をつぶしてたまるか！

土屋先生は苦笑いを浮かべながら話した。

「あ……あのな……」。明日、転校生がクラスに来るんだ。そこで、
一宮に校内案内を頼もうと思うんだが……」

「嫌です。」

キツパリとした即答ぶりに先生もため息をついた。

「頼むよお……」。他に頼める奴もいないんだ。」

先生は椅子をキィキィ回しながら話す。

それが人に頼む、態度かよ……。

あたしはお返しにニツコリと笑って返答した。

「きつと夏目なら喜んでやりますよ。アイツ、単純ですからね。」

夏目は、こんなようなクラスの為になる事を喜んで引き受ける。

なぜか……と前に聞いてみると、

『クラスの奴らが困っていたら、俺がやるしかないだろ。』

と言っていた。

良い事を言っているようだが、少しずれているぞ。

「勘弁してくれよお……」。あいつは、遅刻常習犯と同じに宿題

忘れの常習犯でもあるだろ？とても、任せておけん。」

その後も……先生にすがりつかれるような態度で言われたから……

とうとう言ってしまった。

「良いですよ。」

ってね。

第2話

転校生

- MAHUYU - (後書き)

お久しぶりです……—

桃苺です。

後、もう少しで春夏秋冬メンバーがそろいます。

頑張っで行こう………と思いますよ。

今は……ですが。「「?」@「@」@「」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4951j/>

* 春夏秋冬な僕ら *

2010年10月28日03時21分発行